

資料 5(1)

就労継続支援B型事業所フルトン 初期状態の把握

井上 翔平さん

令和7年3月25日作成

基本情報に関する項目	中項目	
1. 基本情報		氏名:井上 翔平(いのうえ しょうへい) 年齢:18歳
		身長:170cm 体重:54kg
2. 生活の状況	生活歴	地域の小学校特別支援学級を卒業。特別支援学校中等部、高等部を卒業。小学校入学時から放課後等デイサービスを週1回、中等部進学時から週2回利用。
	家族状況	両親との三人暮らし。父(50歳)会社員、母(48歳)主婦。祖父母は遠方在住。育児は主として母親が担ってきた。母親は心配症で先々に言葉が出てしまう性格。
	経済状況	父の収入で生活
	居住環境	駅から歩いて15分ほどの分譲マンション
	その他	産業は、昔ながらの造り酒屋や沿岸部では牡蠣や海苔の養殖もおこなわれる。また工業も盛んであり、ここ最近ではハイテク産業の導入も進む。大きな大学があることから学園都市でもある。公共交通機関はJR、バスがあるが、主となる移動手段は自家用車。
3. 医療の状況	病歴・障害歴	自閉スペクトラム症 療育手帳 ㊤ 特に大きな病気はしていない。
	医療機関利用状況	なし
4. 福祉サービスの利用状況		放課後等デイサービスのみ利用している
5. 健康状態	服薬管理	なし
	食事管理	なし
	障害・病気の留意点	スケジュールが急に変わると混乱したり、騒がしい音に不安を示したりする。
6. 日常生活に関する状況	ADL	自立
	移動等	歩くことが好きで、慣れた場所であれば一人で行くことができる。同伴者がいると公共交通機関の利用は可能である。
	食事等	自立
	排泄等	自立
	得意・好きなこと等	散歩が好きで一人で電車を見に行く。電車の絵を描くことが好き。校内で賞を取ったことがある。
7. コミュニケーション能力		日常的な会話は可能だが、内容が難しいとそのまま繰り返すことがある。また同時に複数の指示があると混乱しやすい。絵や写真、簡単な指示書等の視覚的な手掛かりは有効である。
8. 社会参加や社会生活技能の状況		コンビニでお菓子を買うなど、簡単な買い物は出来る。支払いはその都度 母親からお金を受け取っている。
9. 教育・就労に関する状況		別紙A 詳細
10. 家族支援に関する状況		—
11. 本人の要望・希望する暮らし		「お父さんみたいに働きます」「電車の本がほしい」と話している。外出することが好きで、表情が明るくなる。
12. 家族の要望・希望する暮らし		翔平のやりたいことを応援したい。少しずつでいいから経験を積んでほしい。高等部の職場体験で落ち着かなくなったこともあり、新しいことを始める時が心配になる。
13. その他の留意点		—

資料 5(2)

別紙A

9. 教育・就労に関する状況教育・就労に関する状況

特別支援学校高等部3年時に卒業後の進路選択のための職場実習、施設実習など経験した。	
職場実習	自動車部品の組み立て工場で体験実習。作業を簡単な指示書の提示により作業遂行能力の見極めを行ったが、全体的に理解力、集中力、持続力が低く、本人用に課題設定をする必要があった。大きな音が気になり、耳を押さえて机に伏したり、音の発生源を度々見に行ったりと落ち着かず危険な行為が見られ職場実習が終わる。 その後、職場実習時の状況を教師・本人・保護者間で懇談を行う。 進路として一般就労は厳しいのではないかと指摘を受ける。
就労アセスメント	卒業後の一般就労を含む本人に適した進路選択のために就労移行支援事業所による就労アセスメントを受ける。アセスメントの結果から障害特性(場面の切り替え、見通しの持たせ方、翔平さんにとっての労働環境の整備等)に配慮した支援が必要であるため、卒業後の進路選択として一般就労や就労移行支援事業所の利用ではなく、長期的な視点で働くスキルを高める取り組みが出来る就労継続支援B型事業所の利用が適しているとの評価を受ける。
施設実習	特別支援学校は就労アセスメントを受けて、進路先として就労継続支援B型事業所フルトンを実習先として選ぶ。フルトンでの作業内容は、自動車部品組み立て・菓子箱折り・折り鶴解体作業等。実習は、「各作業を1日体験。3日間行われる」と説明する。 実習後の反省会では、自動車部品組み立てでは叩く音が気になり、耳を押さえて机に伏せていた。菓子箱折りでは同じ製品だけであれば集中できたが、他の菓子箱組み立てに変わると、組み立て手順や形が変わるためか、作業をすぐに開始できず机に顔を伏せたり、他の利用者のことが気になって作業が止まったりしていた。折り鶴解体作業(折り鶴を元の折り紙の状態に戻す作業)では、新型コロナウイルスの影響から平和公園にささげられる折り鶴が少ない影響で作業が短時間で終わってしまったため、顔を伏せるといった行動が見られた。
施設実習後の経過	フルトンのサービス管理責任者、花巻は言葉での指示だけでなくメモ帳を使って、絵や簡単な文章で作業を説明することを試していた。視覚支援や聴覚過敏への対応等を行えば随分変わるのではないかと手ごたえを感じていた。 課題として、翔平さんが理解することが出来るような見通しの示し方を見つけることが必要と考えた。サービス管理責任者の花巻より翔平さんにフルトンの工賃は1万2千円と説明した。 翔平さんに希望を尋ねると「お父さんみたいに働きます」「電車の本がほしい」と話しており、翔平さんが働くことに意欲的であると感じた。また母親と学校の先生から翔平さんは絵が上手だと聞いた。この話から、折り鶴再生事業に思いを馳せ、他の事業所がオリジナル製品として一筆箋を製品化していることを思い出し、翔平さんの得意な絵を活用できないかと考えた。 学校での進路が決まった後に、相談支援事業所リングスの北口さんがフルトンを訪問、翔平さんの事業所受け入れの確認と今後の予定について、フルトンのサービス管理責任者、花巻と話合った。その後、家族と懇談を実施した。相談支援事業所リングスの北口さんがサービス担当者会議を招集し、その後サービス等利用計画を作成される(※1)。 サービス担当者会議の内容を受けて、フルトンのサービス管理責任者、花巻は翔平さんの実習や、その後の家族との懇談を経て、フルトンとして初期状態を把握し(※2)、ニーズを整理した後、個別支援計画を作成することとなる(※3)。

※1 サービス等利用計画等 資料1～4

※2 アセスメント 資料5

※3 個別支援計画の原案 演習で作成